

貞山運河の周遊船 ルート増へ工事要望

社団法人、県に

仙台市の沿岸部を南北に走る貞山運河の「新堀」で周遊船が運航できるようにしようと、運河を生かして地域活性化を目指す一般社団法人「貞山運河ネットワーク」は19日、新堀の川底の泥やがれきを除去する工事を実施するよう県に要望した。

同法人によると、9・5キ・財ある新堀は、東日本大震災の津波が運んだがれきなどで水深が浅くなって

千葉部長（右）に要望書を手渡す桜井会長（19日、県庁で）



いるという。提出した要望書では、がれきの撤去や川底の掘削工事のほか、船着き場の整備や運河の水質改善にも取り組むよう求めた。

貞山運河（全長31・5キ・財）は、仙台藩主・

伊達政宗が開削を命じたとされる。今年5月、名取市関上の同運河の一部で周遊船「ゆりあげ丸」の運航が始まっており、同法人の桜井広行会長（68）は「仙台側は自然がしっかり残っていて野鳥も多い。川幅も広いので、整備すればカヤックやカヌーなどができるエリアになる」と述べた。

要望書を受け取った千葉衛土木部長は「地元の声を聞きながら対応し、貞山運河の発展に努力したい」と応じた。